

はじめに

2011年3月11日に襲った東日本の大地震とその後の津波が福島第一原発に大きな損傷を与え、深刻な被ばく事故が発生しました。最近になってその損壊状況が、徐々に明らかにされつつあります。基本的には地震と津波によって冷却システムの機能が奪われたため、原子炉内の冷却が行われなくなり、1号機から3号機で炉心溶融(メルトダウン)が起き、さらに原子炉格納容器の一部も損壊したということです。また使用済み燃料の一部も冷却ができない事態に陥り、結果として放射性物質が原発から漏れ出し、空气中に飛散、あるいは海水に漏出しました。そして放射能汚染が始まりました。

このため周辺の地域住民の方々も、避難を余儀なくされました。何の情報もないまま、着の身着のままの状態でご郷を追われ、職を失い、生活そのものが奪われ、不安と恐怖の避難生活を送っています。また避難地域外の住民の方々も、いまだに原発事故が収束の目途すらたたない状況の中で、放射線の影響や将来にわたる生活や健康の不安を抱え、また風評被害にも遭いながら日々を送っています。空気、土壌、海洋汚染は深刻です。それは日本国内だけではなく、大量の放射能汚染物質が海水に放出されていたという点では、国際的に見ても大きな問題です。

全日本民医連の緊急被曝事故対策委員が手分けをして、5月の連休中に福島県内で緊急住民学習会を開催しました。そこではどの会場も満杯となるような状況で、たくさんの質問や相談が寄せられました。私たちは「いのち」を守ることを使命としている医療従事者であり、長年、広島・長崎の原爆被害者の健康と権利を守ってたかかってきた民医連の職員です。こうした国民のいのちを守る立場から福島県民や国民の様々な期待に応える活動をすすめたいと思っています。

「フクシマ」は何を発しているのでしょうか。①世界中の英知を結集して原発事故を収束すること ②日本のエネルギー政策の転換をはかること ③住民の長期にわたる健康管理をはじめとした健康・生活保障をすることが求められています。原発問題に関する知識をきちんと習得し、周辺の地域住民の方々と共にこの問題にどう向き合うのが、また私たち民医連が何をすべきかを考える契機として、この学習用の資料を作成しました。職員の皆さんがこれを教材として学習し、共同組織の仲間や民主団体、多くの国民に医療者としての発信をして頂けたらと考えます。

また福島第一原発の周辺地域の住民の方や原発事故による健康不安を抱えて来院されたすべての方々に対して、その方々の想いに寄り添いながら、不安や要望にまっすぐに、真摯に応えていただくことをお願いします。そして全日本民医連緊急被曝事故対策本部及び全日本民医連理事会が確認した「福島第一原発事故の避難地域および周辺地域の住民が受診されたときの医療対応のあり方について」の徹底と活用を図って頂くようお願い致します。

何を学ぶか

(学習の目標)

私たち民医連職員は、被災された現地の住民の方々の想いに寄り添って、その問題を共に解決していく、また今後二度とこのような事態を引き起こさせないという視点から、次の点を学び合いたいと思います。

① 放射線が人体に及ぼす
影響を知る

② 周辺地域の住民の方の不安や
恐怖に横たわるものをつかむ

③ 今回の事故の問題点と
今後の対応のあり方を考える